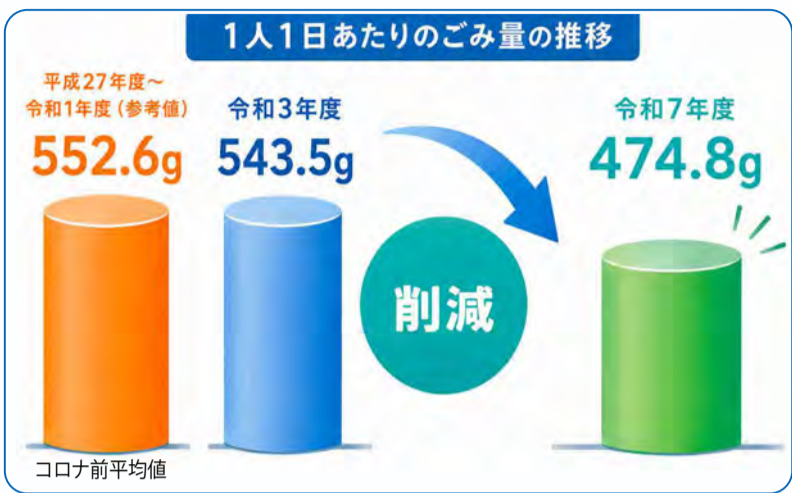


※ごみ量、12.6%削減!

ごみ量削減の目標を設定するにあたり、指定ごみ袋制度開始前の令和4年に制度開始前後の影響を受けにくい2年前後(令和3年度と7年度)を比較することとして、**9%の削減目標**を設定しました。

市民の皆さんのごみ減量への取り組みにより、**12.6%の削減**ができました。日頃からの分別や減量への温かいご理解とご協力、本当にありがとうございます! これからも持続可能なまちづくりを目指し、引き続き「**ごみの減量**」に取り組んでいきましょう。



※1人1日あたりのごみ量=(家庭から排出されたごみ量-資源ごみ量-集団回収のごみ量)/年間日数/人口

燃やすごみの37.6%は資源?!

「紙類」を分別してリサイクルしよう!

令和6年度のデータでは、燃やすごみの中に紙類が37.6%あり、その中にはリサイクルできるものも含まれています。分別すれば資源になるものが、燃やすごみとして処理されている現状があります。燃やすごみ減量や資源化量の増加へ効率的につなげるため、ご協力をお願いします!



もっと知ろう!



紙資源のリサイクル

燃やせば「ごみ」分別したら「資源」

分別ができていないと、こんな問題も起きています

リチウムイオン電池による火災

モバイルバッテリーやハンディファン等の混入により火災が発生する危険があります。



スプレー缶による火災

中身が残ったスプレー缶が原因で収集車や処理施設で火災事故が起きています。



不燃物混入

可燃ごみに不燃物が混入すると、燃えずに残ってしまいます。



ごみの分別が適切に行われないと、資源を無駄にするだけでなく、ごみの収集や処理に支障をきたすおそれがあります。また、海の埋め立て地への搬入が受け入れられない可能性もあります。こうした事態は、皆さん一人ひとりの心がけで防ぐことができます。さらに、資源ごみは市の財源となるほか、環境保全にもつながります。正しい分別へのご協力をお願いします。



モバイルバッテリーが膨らんでしまったら...



正しい出し方はこちら▶



ホームページ

原因

衝撃や高温で内部が膨張することがあります。



危険

膨張すると発火するおそれがあり危険です。



収集には出さないで!

収集車の収集にまぜないでください。

直接持ち込みを!

芦屋市環境処理センターへお持ち込みください。



事前の電話予約(☎32-5391)が必要です。

ペットボトルの豆知識



ホームページ

キャップリング



ペットボトルのキャップを外した時に残る部分を「キャップリング」といいます。キャップは分けて回収しますが、キャップリングは外す必要はありません。(危ないので無理に外さないでください)なぜでしょうか?

→答えは、水の力を使ってペットボトルとキャップリングに分けられるから!

リサイクルの工程では、細かく砕いたペットボトルの本体は水より重いため沈みます。一方、キャップリングは水より軽く浮くため、この重さの違いを利用して分別できるのです。そのため、キャップリングは付いたままでも大丈夫なのです。



より適切なリサイクルのため、**キャップやラベルは取り外してから分けてごみに出してください。**



キャップを外す ラベルをはがす 袋に入れる

環境処理センターからのお知らせ

日頃から、ごみの分別や減量、地域での集団回収にご協力いただき、ありがとうございます。紙資源などは地域の集団回収をご利用いただくことで、より効率的な資源化につながります。引き続き、集団回収のご活用をお願いします。限りある資源を大切に、芦屋の未来を守るため、ごみの減量化と適正な分別へのご理解とご協力をお願いします。市民の皆さんとともに、持続可能なまちづくりを進めてまいります。

社会情勢の影響もある中で、指定ごみ袋は製造を継続していますが、一部店舗で欠品が続いています。このため、市では指定ごみ袋に関する臨時措置期間を**9月末まで延長**します。詳しくは**本紙5面**をご覧ください。

限りある資源を次の世代へ引き継ぐため、一人ひとりのご協力をお願いします。